

## 女子学生の体温測定について

和洋女子大文家政 ○宮川豊美 高梨誓子 川村一男

目的 体温は健康状態を知る指標の一つとして、日常広く活用されている重要な因子である。また、体温計が家庭に常備されている割合も高く、近年は水銀に代り電子体温計も普及している。しかし、体温測定部位や測定時間、体温計の種類による差異等、家庭での測定に対する問題点も種々指摘されている。私共も日頃学生が、体温についての関心が高いのに、測定に対する基本的な認識が甚だ曖昧で、また測定方法も誤りの多いことを感じている。そこでこれらの点を指導しながら、水銀体温計で平常体温の測定を行ったので、その結果について報告する。

方法 平型水銀体温計を用い、19～21才の健康な女子学生の腋窩温と口腔温を測定した。なお、被験者の月経周期は特に考慮しなかった。測定期間は1989年から92年までの、4～7月と10～12月である。測定時間はいずれの期も午前11時から午後3時までの間であり、食後3時間経過後とした。測定場所は実験室に統一した。姿勢は椅座位での安静状態、着衣は特に限定しなかった。体温計保持後1分毎に20分までの経過を観察した。

結果 被験者702名の平衡温に達した時の体温計示度は、腋窩温 $36.89 \pm 0.34^{\circ}\text{C}$ 、口腔温 $37.11 \pm 0.28^{\circ}\text{C}$ であった。また、平衡温に達するに要した時間は、腋窩温 $13'03'' \pm 4'01''$ 、口腔温 $10'34'' \pm 3'53''$ であった。腋窩温と口腔温の差は、平衡温は口腔温が $0.22^{\circ}\text{C}$ 高く、平衡温に達するまでの時間は、腋窩温が2分29秒多く要した。アンケートによる家庭での腋窩温測定時間は、4分56秒であった。また、体温計が家庭に常備されている割合は、99.2%であった。